
秘密

はっぴい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密

【Zコード】

Z50831

【作者名】

はっぴい

【あらすじ】

華山凜、高校生になりました。なのに、初日から寝坊・・・・・。
。もう高校生なんだからしつかりしないといけないと思います。（
ちょー他人事です）でも、私は朝にとつても弱いのです。いいわ
けですけど。私は今日から藤咲高校の一年生です。でも乗り気では
ありません。誰も中学で仲が良かつた人が誰もいないのです。それ
は、私が中学校の時に全然勉強しなかったのが悪いんですけど。高
校になつてから新しい友達ができなかつたらどうしようと私は困つ
てます。

私の運命が変わる「親友」との学園生活が始まりました。私と凜は高校入ったときからずっと仲良しだった。私たちはいつもどこでも一緒にいた。私はずっと一緒にいられるって思つてた。でも学園祭から私と凜はギクシャクし始めていく・・・・。凜の秘密とは・・・。それを知つた私はどうなるのか・・・。私と凜との友情のお話のスタート！

登場人物の自己紹介！！

『藤咲高校 1年3組』

桃城蝶夏
ももしろちよか

元気でちょっとおっちょこちょいな女の子
この物語の主人公（途中から凛が主人公）
このクラスの副委員長をやつている

華山 凜
かやま りん

おしとやかな成績優秀な女の子

でも実は誰にもいえない秘密がある

輝と学園祭の実行委員になつた

諸星 蛍
もろぼし けい

学校で1、2を争うイケメンの草食系男子

今でも忘れられない人がいるため、その人以外好きな人がいたことはない

このクラスの学級委員長をやつしている

神富司 輝
じんぐうじ ひかる

神富司グループの御曹司

萤と中学校からの大の仲良し

凛と一緒に学園祭の実行委員になつてしまつた

小説の始まり～！始まり～！

私は今日から藤咲高校の1年生。

でも気付いたときには8時13分！

てことは、学校に8時30分行く時間10分をひくとあと7分しかないじゃん！

そう思つて、私は急いで布団から起き上がつた。

私はお母さんに、

「寝坊したあ。なんで起こしてくれなかつたの??あ～もう、しかもなんで田覚ましらないの…」

そうしたらお母さんが、

「もう高校生なんだから自分で起きなさいよー。ちやんと高校生になるところの自覚持ちなさいよ。」

と、逆に怒られてしまつた。

実は私は一回田覚ましを止めるために起きたらしい。
でも、結局また寝てしまつて……。（私には止めた記憶がないのだけれど）

入学式のときぐらじ早く行けりうと思つたのになあ。
もつこんな時間になつちやつたから朝ごはん食べるヒマないし。
お母さんには高校生なんだからきちんとしなさいって言われるし。
もつこんなことつてる時間ないや。

「行つてきま～す！」

「ご飯食べて行かないの?パンぐらじでも食べてこいかなさいよ。」「そんな暇なさいのー！ねえお弁当は?早くしてよー憩つてぐるんだから！」

「今日は午前中だけでしょー！そのぐらじ自分で覚えておなさいよー。
まあいいから早く行きなさい。」「はあーい行つてきまあーす。」「行つてらっしゃい。」「

私はダッシュで藤咲高校へ行つた。

初日から遅刻なんて嫌だつたといふかはすかしいからなんだけど。こんなことを話しているうちに正門に着いた。

2分前だった。

私は自分のクラスがどこか見に行つた。

「え～と、私のクラスは・・・・・・・・」

「あつた～～！3組だ　！～！」

私が独り言を大声で言つてしまつたことに気がついたとき、かわいい女の子がはなしかけてきた。

「あの・・・・・私も3組なん一緒に行きませんか？？」

「いいですよ。行きましょ～う！」

その子の第一印象は静かそうな子だつた。

でもしゃべつて見るととっても明るくてちょっとバカっぽいところもあって、とっても話が合つたからわたしたちはすぐ仲良くなつた。

今日の午後にクラス委員決めがある。

私は蝶夏と一緒になんか簡単なのに入ろうつと思つてたのに蝶夏はクラスの副委員長になりたいらしく私は何にしようか迷つてます。だんだんみんな決まつていぐのに私はまだ決まつてません。どうしよう・・・

「じゃあ次、学園祭の実行委員やるやついないか？男子一人、女子一人ずつだぞ。」

いつの間にか蝶夏は、なりたいのになれていたらしい。

でも、この委員はめんどくさいからやだけどなあ。

「じゃあ誰か推薦しる。」

蝶夏が急に手を挙げて、

「華山さんがいいと思います。」

えつ・・・・・私やだよ。何推薦なんかしちゃつてるんだよー蝶夏のバカ！ー

「じゃあ華山、頼んでいいか？」

私は断れず「はい」と返事をしてしまつた。

めんどくさい仕事を任されてしまい嫌だなあと思つた。

うれしくもあり、めんどくさい事を任されて
なんかのらない高校生活一回目の始まりだった

今日、学園祭実行委員の集まりがある。

めんどくさいこの係にはなりたくなかったのは第一だけど、男子と
つていうのが嫌なんです！

前から男子としゃべるの苦手で・・・・。

しかも、その男子が神富司 輝なんです！

ちょ がつくほどのおボッチャまでしかもちょ 生意氣。

イコール私が一番苦手なタイプ。

ぜんぜん乗り気にはならないけど、なつたものはきちんとやらないと
氣が済みません！

だから頑張ります！

放課後、部活のある蝶夏またあとで教室で会つ約束をしてから集ま
りに行つた。

でも、私のクラスの男子 神富司だけがいつまでたつても来なかつ
た。

私はサボつたんだなと思った。

正直そんなに来るとか期待してたわけじゃないからいいんだけど。
でも、それで怒られる私の気持ちも考えて欲しいです！
もうちょっととききちんとした人の方がよかつたなあ。

うちのクラスの学級委員長みたいな。

私はこんな話を一方的に蝶夏に話したら

「なんかその一人つてちょー仲いいらしいよ。幼馴染的な？感じ？」

「えつ誰と誰が？」

「だから神宮司とうち委員長の諸星が」

「えつそれってホント？？」

「うん。だつて本人から聞いたし。私も最初聞いたときはめっちゃびっくりしたんだけど。」

「なんで？ 性格真逆の二人が？」

「私も聞いたんだけど、なんか気合いつていうかなんかずっと一緒にいるっていうかって感じなんだつて。」

「へえ～、そんなこともあるんだね。」

「じゃあ諸星君は明日は行くよついでに云々といつてもうつ？ 今日、凛待つてる間にメアド交換したから。」

「う～ん。じゃあよろしく！ 明日の朝8：00に集まりあるから。」

「分かった。伝えとくよ。」

そう言つて私と蝶夏は家に帰つた。

次の日、私はいつもより早く学校に来た。

だから眠くてしようがない！ でも、あいつに早く来いって言つて自分が遅れたらどうしようもないって感じなんで。やつぱり教室に行ってみるとアイツはいなかつた。でも、その5分後ぐらいに誰だか分かんなかつたけど教室に入ってきた。

「あのさあおまえつて華山 凜？」

「そうですけど。」

「昨日はごめんね。螢が教えて教えてくれたんだよ。忘れててさあ。

「もしかして神宮司 輝？」

「ただけど。」

「今日は来てくれたんだ～～ 昨日はサボつたのに。」

「サボったんじゃないってば。」めんつて言つてるじゅんー。

「あつそですか。では集まり行きましょうよー。」

「やうですねー！」

なあにあいつちゅ～ムカつくんですけど～。

ウザいです！

なんで自分が昨日行かなくて怒られてんのに逆切れしてくるわけ？？
だからあ ゆうタイプの男子って嫌いなんだよね。

アイツと学園祭まで一緒にやんなきゃいけないなんて嫌だなあ。

ハア~~~~。

明日から学園祭の準備だあーーー！

10月27日

文化祭まであと7日 ～ 文化祭準備1日目～

今日はとっても楽しかったです！

なんか、学級委員長と副委員長もいろいろ手伝ってくれることになつたからでーす。

だつてうちのクラスの副委員長は蝶夏なんだもん！
ずっと「アイツ」と一人でやんなきゃいけないと思つてたから嬉しいです！

しかも、うちのクラスは『クレープ』をやるつけて話になりました！

私、実はクレープ大好きなんです。

だからちょー嬉しいです。

今日はアイツともいい感じで良かつたし。

こんな感じで一日目が終わりました。

10月29日

文化祭まであと5日～文化祭準備2日目～

今日は体調がすぐれません。

何か熱っぽいです。

ばれないようにずっと作り笑いしてたんだけど、

「体調悪そだよ、保健室行く」って凛には見透かされてしまった
ようです！

びっくりだつたのはあいつ（神宮司）が私の体調が良くないことを
気付いたこと！

「大丈夫か」とか言われちゃつちゅつと私的には嬉しかつたりし
ます。

（それは何でだか分からないけど）

そう考えると神宮司も悪くない奴だと思つてしまします。

（私つて優しいことされるとみんないい奴だと思つて・・・これつ
てヤバいです・・・）

でも、学園祭までは何があつてもがんばります。

1日でも休まないで学校行きます。

一つでも高校生活の楽しい思い出をとつておきたいから・・・・

10月31日

文化祭まであと3日～文化祭準備3日目～

今日はみんなでクレープ作り。

蝶夏と神富司と諸星君と。（みんなじゃないですね）
まずみんなで近くのスーパーに材料を買いに行きました。
関係ないものまで買っちゃつたりして。

神富司、クレープにきゅうりとツナ入れるとか言つてるし。
ホント変わったヤツだなあと思って。

でもそんな悪い奴じゃないっぽい。

なんか思つたよりいい奴つて感じかな。

でもさつきの食べてみると結構イケちゃう系。

時間忘れてやつてたから先生に初めて怒られた・・・・。

貴重な体験だったよ。

こんな感じでとっても楽しい1日でした。

11月2日

文化祭まであと1日～文化祭準備最終日～

明日は文化祭当日だということで今日は準備でみんな大忙し。

材料買いに行つたり、看板作つたり。

それと、紅葉ちゃんつていう裁縫の「まいまい子」がクラスの衣装を作ってくれたよ。

ちょかわいくて着るのが楽しみ。

私もなんか手伝えると良かつたんだけど、体調悪くてみんなにそこで休んでるって言われて……。

私はいいクラスメイトを持ったなあと思つた。
ずうつと迷惑かけて「めんね。

でもありがとう。

私明日は絶対行くからね。

高校生活最後の思い出を作りにね。

11月3日、文化祭当曰になつた。

だけど昨日より気分がすぐれないつす。

朝学校に行つたら凛が

「大丈夫？」

と聞いてくれてなんか嬉しかつた。

「大丈夫に決まつてんでしょ！ それじゃなきやここにいないから。
体調悪いのに来て迷惑になるのだけはやなんだつてこと知つてるで
しょ。」

「そんだけ元氣なら大丈夫ね！」

実はここんとこ調子悪かつたから入院しろつて医者から言われてた
んだよね。

でもどうしても最後の楽しい思い出作りたかったから今日はびしき
ても倒れるわけいかないんだよね。
つてわけで神様お願い！ 今日だけはがんばって！！

午前中私と蝶夏は係じやなかつたからいろいろなところを見に行つた。
途中からなんか神宮司と巫君と一緒に回ることになつて……。

。

しかも蝶夏と萤君は消えちゃうし。
だから神宮司とずつといつしょで。

いつも4人でいつしょにいるから何話したらいいか分かんなくて。
嬉しいやらドンキドキやらで何したんだかよく覚えてない。
でも私が気付いた時には、病院のベットの上にいたんだ。
その時私は倒れてこの病院に運ばれてきたことを知った。

蝶夏、神宮司、萤君がいた。

みんな心配そうに私のことを見つめていた。

私は、

「みんな迷惑かけてごめんね。」
謝ることしかできなかつた。

「何で言つてくれなかつたの？ 親友でしょ！」

「俺らにだつて言つてくれたつてよかつたじゃん」

「ごめんね。 心配掛けたくなかつたんだよ。 そりいえば文化祭途中
じゃないの？」

「それは大丈夫。 先生に抜けるつて言つてあるから。」「
「ごめんね・・・」

みんなわたしの病氣のことお母さんから聞いたみたいだつた。

私の寿命があと半年しかないつてことも。

私はみんなに会わせる顔がなかつた。

そんな重要なこと今の今までずっと黙つてたんだもん。

私はみんなを裏切つたんだなあと思った。

でも、みんなは普通に話しかけてくれた。
しかも毎日蝶夏はお見舞いに来てくれた。

私と無駄話をしにね。

なんか蝶夏、萤君と付き合い始めたんだつて。
まああたしもあんなに嫌つてた神宮司が今恋人なんだよね。
わたしが1回は断つたんだけど、アイツしつこいから・・・。

まあ、あたしもあいつのこいつの間にか好きになつてたけどね。
それで蝶夏がね、でんきになつたら4人でダブルデートしようひつ
て。

なんか蝶夏が気を使つているのがすこく分かつた。
それを感じるだけでつらかつた。

だつて私の病気は治らないものだから。
それをもう一回思い知らされたようで嫌だつた。

私の寿命はタイムリミットに近付いていた。

それといつしょに体調が次第に悪化してきた。

この時私はいつ死んでもおかしくないなあと思つた。

私は明日の朝を迎えるのだろうか。

寝てしまつたらずつと田が覚めないのではないかと思つて、私は

寝ることができなかつた。

とにかく死ぬのが怖かつた。

みんな何の変わりもなく接していくことにさえ怖さを感じていた。

私はいつの間にか死んでいた。

氣付かないうちに天国にいた。

みんなありがとう、今までありがとう。

お母さん、こんな子をここまで育めてくれてありがとう。

お父さん、お金のかかる娘でごめんね。

蝶夏、ずっと親友でいようね。

神富司、大好きだつたよ。

茧君、蝶夏と幸せにな。

みんな、こんなあたしと一緒にいてくれてありがとう。

(後書き)

はっぴい です。

ここまで読んで下さりたいへんありがとうございました。
途中から急に主人公が変わってしまいましてすみません。
話がグチャグチャになってしまったことも申し訳ないと思っています。

ここからはこのお話のちょっとと続きのお話です。
読みたい方だけ読んでください。

～凛が死んでから（蝶夏）～

私は凛のお母さんから渡したいものがあると言われ凛の家に行つた。
そうしたら日記らしきものが渡された。
中を見てみると、

凛の日記 ～Rin, s diary

今日から日記を書くこと思います！！BY凛

約束事

? 毎日書く（たぶん無理）

? その日に合つたことを細かく書く。

? いっぱい書く。

つてわけで3日坊主にならないようにがんばります。
と書いてあった。

次々見ていくと学園祭前のこと�이 いつぱい書いてあった。
なんか見てたらまた泣きそうになつてこらえるのが大変だった。
最後のページに私へのコメントが書いてあった

蝶夏へ

ごめんね。

これを読んでるってことはわたしは死んじゃったんだね。
わたしはずっと蝶夏といっしょにいたかったよ。もつといろんな話
したかつたよ。

でも死ぬ前に蝶夏に会えて良かったよ。

文化祭、いっしょに回れたね（邪魔が入ったけど・・・）

一生の思い出の中で一番たのしかつたよ。

けんかもしたよね。

でもけんかして分かつたこともあったよ。

わたしの親友は蝶夏しかいないんだって。

蝶夏と一緒にいな学校生活がこんなにつまらないものだったなん
て。

もう毎日が幸せだった。

私、蝶夏がいて幸せだった。

今までいっしょにいてくれてありがとう。

元気でね（わたしの分まで一生懸命生きてね）。

バイバイ

P・S - 僕君と仲良くね

凛

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5083i/>

秘密

2010年10月22日00時15分発行